

区分・種別	県指定無形民俗文化財		
名称	かねおどり 鐘踊り		
所在地	四国中央市新宮町上山		
所有者		管理団体	鐘踊り保存会
指定年月日	昭和43年3月8日 県無形文財 昭和52年1月11日 県指定替え		
解説	<p>新宮町西庄^{にししょう}の大西神社の祭礼（旧暦8月1日）に奉納される念仏踊りである。天正5（1577）年7月、土佐の長宗我部元親と戦って自刃した轟城主大西備中守元武の霊^{とどろき}を慰めるための踊りであるという。</p> <p>神社の前庭に笹を立てしめ縄を円形に張り巡らしてその中で踊る。構成は、猿田彦^{さるたひこ}1名、棒振り1名、まさかり4名、薙刀4名（女性）、衾姿^{かみしも}の鉦^{かね}10名、締太鼓^{しめだいこ}2名の22名が乱舞する勇壮な踊りである。内容は、まず討ち入りといって、薙刀とまさかりが交互に切り結びながら、全員が踊り場で円陣をつくる。神官の御祓^{おはらい}を受け、棒使いの口上がある。ここより踊りに入り、「よせ、七つ、三つ、九つ」と踊る。これを一庭と言い約40分かかかる。昔は夜を徹して三十三庭踊っていたが、今は三庭で、最後に「やれとう」を踊って終わる。</p> <p>この踊りは古風を良く伝承した県下の代表的な念仏踊りである。</p>		

